

城川内小学校児童らが風車を見学 風力発電を身近に感じて

城川内小学校の全校児童が7月8日、汐見上り浜にある、長島黒之瀬戸風力発電株式会社の風車を見学しました。

これは、同社と風車を製造した株式会社東芝が、世界風車の日にちなみ、風力発電をより身近に感じ理解してもらうために開催したのものです。

児童らは、同校体育館で地球環境と風車についての説明や風車作りを終えたあと、風力発電を見学しました。

見学を終えた大戸公美子さん(6年)は「初めて入った風車の中は、声も響いて広がった。風車のことが色々分かって良かった」と話していました。



↑風車の中で説明を受ける児童たち

ふれあい警察 IN 獅子島 県警音楽隊が26年ぶりに演奏

7月13日、獅子島で鹿児島県警による「ふれあい警察 IN 獅子島」が開催されました。

獅子島小中学校体育館では、県警音楽隊33人が訪れ演奏会を実施。26年ぶりの獅子島での演奏会に、児童生徒のみならず多くの島民の人たちも来場。約1時間の演奏会を堪能しました。

このほか、阿久根警察署若手職員による、振り込み電話詐欺の注意を呼びかける寸劇や、獅子島アイランドセンターでは阿久根警察署移動交番が設置されたほか、警備艇「さくらじま」も展示公開されるなど、獅子島島民と警察がふれあう1日となりました。



↑音楽隊の演奏に聞き入る生徒たち

汐見集落で防災研修会 みんなで考える地域でできる防災

7月16日、汐見集落では台風シーズンに備えて防災研修会を開催し、豪雨災害や台風への心構えなどについて学ぶ研修に約40人が集まりました。

この日は、県地域防災アドバイザーの柏木義昭さん(阿久根市)を講師として招きました。柏木さんは、災害から身を守るためには、自分たちの住んでいる地域を知り、気象情報に耳を傾け、危ないと感じたら、すぐに避難することなどが重要で、そのためには集落の危険箇所の把握や要配慮者の把握など、地域は自分たちで守るという意識づくりが大事であると話されました。



↑柏木さんの話に耳を傾ける参加者